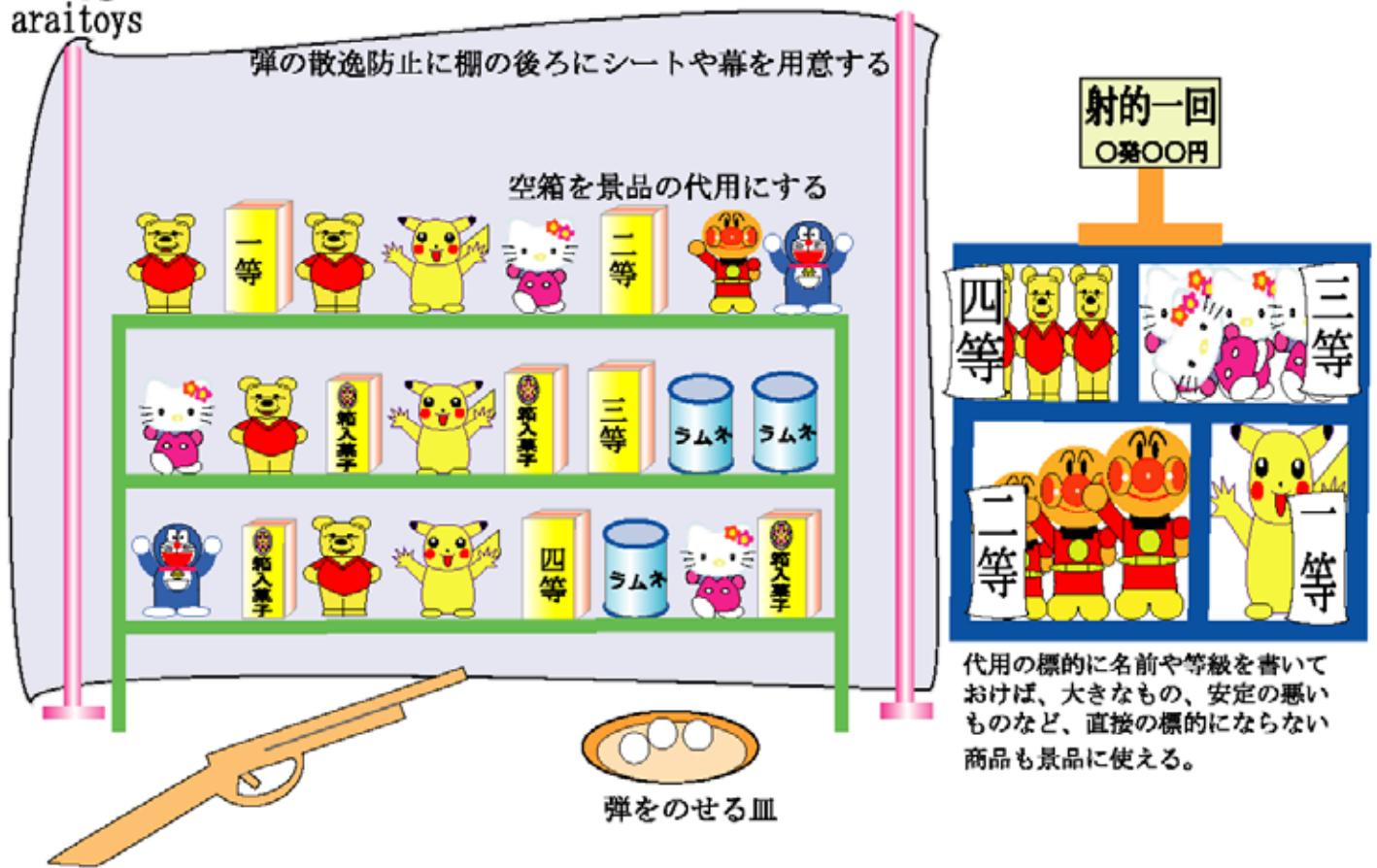


射的遊びのやり方



代用の標的に名前や等級を書いておけば、大きなもの、安定の悪いものなど、直接の標的にならない商品も景品に使える。

◎必要な材料、器材

ライフルと弾
景品、または標的

業務用ライフルとコルク弾、簡易ライフルとプラダンの2種類があります。

棒の先に針金のホックを付けて作る。輪を拾う動作は意外と疲れので、この用具はたいへん便利です。

皿

景品を渡すときの皿と、コルク弾、プラ弾を渡すときの皿

コルクやプラ弾の散逸を防ぐための被い幕とそれを支えるポール

プレイヤーに示す射的の条件を書いた看板(張り紙)

(例：一度に出来る射的の回数、成功不成功の判定、景品や参加賞についてなどを書いておく)

その他文房具

マジックインク、模造紙、セロテープ、カッター等

◎景品について

標的にならない大きさや、安定の悪いものは、空き箱に商品名などを書いて代用する。

賞品そのものの外に射的の再挑戦券などもよい。

標的になる景品の例

トランプ、人形、貯金箱、消しゴム、箱入れ菓子、プラケース入り菓子など、要するに弾が当たって倒れる可能性のあるもので、安定のよいものなら何でもよい。

◎演出について

成功の判定を決める(たとえば、景品が後ろに倒れたとき、商品がのせてある台から落ちたときなど)

一度に出来る射的の回数は3~5回が適当。プレイヤーの位置と景品が置いてある台との距離、商品の重さなどによつて中難度が違ってくる。経験からすると、景品は豪華なものも若干いれて、的中難度を高くし、倒れにくくしてしかもすべて倒れなかった場合には参加賞を渡すといったやり方が好評のようだ。これなら用意すべき景品の数量も事前に把握しやすい。